

開催月日 : 平成 29年 12月 12日(火)

平成29年度 第3回  
定期巡回・随時対応型訪問介護看護サービス連携推進会議

|   |  |     |                |
|---|--|-----|----------------|
| 時 間   | 18:00~19:00  | 場 所 | グッドライフケア24 千代田 |
| 司 会   | 今口 友紀  | 書 記 | 今口 友紀          |
| 出席者   | ○千代田区高齢介護課介護事業指定係：平林正樹様  |     |                |
|   | ○千代田区社会福祉協議会：宇治野敦史様  |     |                |
|   | ○地域住民の代表者（民生委員）：齋藤光治様  |     |                |
|   | ○千代田区高齢者あんしんセンター麹町：井上美智子様  |     |                |
|   | ○貝塚クリニック：高野学美様   |     |                |
|   | ○知見を有する者：蛭原千織様   |     |                |
|   | ○指定事業者   |     |                |
|   | グッドライフケア24：小田秀樹、珍田純子、鈴木直美、坂元あずさ、今口友紀<br>岩木貴代、猪狩大嗣                      |     |                |
| 会議内容  | ① 開会の挨拶、ご出席の皆さまより自己紹介：珍田純子   |     |                |
|   | ② 利用者利用状況：今口友紀   |     |                |
|   | ③ 定期巡回利用者状況の説明：今口友紀  |     |                |
|   | ④ 事例発表：鈴木直美  |     |                |
|   | ⑤ ご出席者皆さまよりご意見、講評：参加者様   |     |                |
|   | ⑥ 閉会の挨拶：小田秀樹   |     |                |
| 詳細  | ② 利用者状況の説明   |     |                |
|   | ・9月以降新規のご依頼がない状況。  |     |                |
|   | ・ご家族様が対応できない時や介護負担による看護相談などのコールが10月に増えた。                               |     |                |
|   | オペレーターが看護師ではないときもあるため、内容によって相談先が違うことを説明し、                              |     |                |
|   | 11月からはコール回数が減ってきた。   |     |                |
|   | ④ 事例発表（グッドライフケアの取り組み）  |     |                |
|   | ・導入時期：退院支援、維持期：生活リハビリ、最終段階：看取りの3段階に分けて事例発表を行う。                         |     |                |
|   | ・事例1：認定申請したばかりの利用者の生活を支える  |     |                |
|   | ・事例2：重度認知症の独居利用者の在宅生活を支える  |     |                |
|   | ・事例3：がん終末期の利用者の生活を支える  |     |                |
|   | ◆参加者様からの意見   |     |                |
|   | ・サービスの枠は柔軟に利用できるが、内容はどうか？常にサービスの内容が妥当なのか検討する必要があるのでは？                  |     |                |
|   | A. 担当者会議を逆上って確認してみると、サービスレベルが低い場合もあった。                                 |     |                |
|   | 何度も見直しの機会はあると思われる。   |     |                |
|   | ・事例1のときなどで、どこまでの回数介入してくれるのか知りたい。                                       |     |                |
|   | A. まずは基本回数として1日3回介入し、そこから1週間ぐらいは6~7回入って状況確認し、落ち着いてきたら回数を3回に戻すなどの対応をした。 |     |                |
|   | ・看護が多く入るケースだと使いにくい。  |     |                |
|   | ・事例2の人は本当に本人が来てもらいたいと思っていたのか？本当に幸せになっているのか？もし違うのなら介護費の無駄遣いにならないのか？     |     |                |
|   | ・QOLが変わっていないのに介護事業所だけがやることになっていないか？                                    |     |                |
|   | 見直しをしないと、このままの使い方では事業所側の負担が大きく心配。                                      |     |                |
|   | A. このサービスは介護度改善ができるサービスだと思っている。そのために                                   |     |                |
| リハビリの専門職ができるだけ関わるようにしている。サービスの内容や回数も同様。常に自分たちのケアが問題ないか振り返り、サービスを実施していく      |  |     |                |
| 事が必要だと考えている。  |  |     |                |
| ⑦ 閉会の挨拶   |  |     |                |
| ・文京区などでは実際にADLが上がってきていると感じている。エビデンスとして検証していかないといけない。コミュニケーション力・育成につなげていきます。 |  |     |                |